

令和4年度入学生用 カリキュラムチェックリスト
 ≪医学部 保健学科看護学専攻≫

・ディプロマポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身に付け、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療者としての役割を果たすことができる。	高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。	
教養科目群							人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。
	歴史と文化	◎	○				・人文科学分野(歴史学、思想、倫理学、文学、芸術、考古学、地理学、文化人類学など)を中心に学ぶ。 ・人間が創造してきた文化や社会の特質、またはそれらの変遷等を学ぶ。 ・様々な地理、時代、分野の人間の営みを学ぶことで、これからの世界で生きていくために必要な、「物事を複眼的に捉える知」を身につける。
	人間と生命	◎	○				・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根元的な問題を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。
	生活と社会	◎	○				・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ視野を広げる。
	自然と技術	◎	○				・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代において、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 ・自然科学に工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
	ウェルネス総合演習	◎	○				・健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにしながら講義と演習、実習により総合的に学び、考える。
創成科学科目群							現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。
	グローバル科目		○	○			・異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要なことを学ぶ。
	イノベーション科目				○	○	・さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。
	地域科学科目	○	◎	○	○		・地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。
基礎科目群							・横断的な医療分野の基盤教育と汎用的技能を学ぶ。 ・専門領域における社会的意義を理解し、チーム医療、健康社会づくり等のスキルの獲得を目指す。
							大学での専門分野を学ぶ前援となる基礎学力を修得する。
	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～				○		・専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。
外国語科目群							・情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 ・数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。
	英語	○	◎				英語や初修外国語の学習を通じて、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。 ・基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 ・基礎英語は、高校までに身につけた英語力の充実を図り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 ・主題別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基礎英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 ・発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。
	初修外国語	○	◎				・英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に対する理解を深める。
人間	人間関係論	○		◎	○		医療福祉施設における職員の活動状況を見学することや、対象者に接することによって、医療福祉施設の役割を学び、対象者の生活の様子を知る。少人数のグループにわかれて、医療または福祉施設において、介護を必要とする人と直接かかわる実習を行う。実習は夏期集中であるが、前期に事前オリエンテーションを実施するので、それに出席することが必要である。
	生化学Ⅰ(生体分子の構造と機能)	○					生体分子の構造と機能を理解するため、その根底となる生命現象、特に核酸およびヌクレオチドの構造と機能、遺伝情報の伝達(複製、転写、翻訳)について解説する。次に、基本的な生体高分子であるタンパク質および酵素について、その構成要素であるアミノ酸の構造・性質も含め解説する。また、同じ主要な生体高分子である糖質・脂質の基本的な構造と生体内での機能、それらの構成要素である単糖や脂肪酸の特性について述べる。さらに、生化学・分子生物学的手法による遺伝子解析、タンパク質解析、遺伝子組換えに関する基本的手法について解説する。
	解剖生理学Ⅰ(基礎知識・消化器・呼吸器)	○	◎				細胞の基本的な構造とその機能を教授する。さらに消化器、呼吸器の形態と機能について教授する。
	解剖生理学Ⅱ(循環器・血液・腎臓)	○	◎				循環器、腎臓の構造とその機能について教授する。血液を構成する各種細胞の形態と機能、体液の構成成分とその恒常性の維持について教授する。

科目名		ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
			①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身に付け、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統のかつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。	
学科共通科目		解剖生理学Ⅲ(脳神経・感覚器・自律神経・内分泌)	○	◎				脳・神経系ならびに自律神経・内分泌器官の構造と機能を教授する。
		解剖生理学Ⅳ(骨・筋肉・免疫・生殖・老化)	○	◎				筋肉・骨、生体の防御機構、生殖機能、卵子、精子の形成、受精ならびにヒトの初期発生を教授する。
	環境	衛生学	○					人の健康と環境の関わりを学び、環境保健学の理解を深める。また、衛生学・公衆衛生学の基礎を広くを教授する。
		保健学概論	○					医学が主に「病氣」を扱うのに対し、保健学では「病氣」の治療も含めて健康の維持・増進に取り組む。オムニバス講義における幅広い話題を通して、ヒトの健康や病氣を医学生物学的な、あるいは社会医学的な面から考える。
		医療経済論	○		○	○		医療の特異性を理解した上で、病院組織ならびに地域医療システムについての理解を深める。 これまで学んできた他の授業を統合し、実際の医療現場のイメージを持ち、医療経営や医療経済の理論との結びつきを理解する。
		社会福祉概論	○		○			社会福祉の基本理念や歴史、現状を通し、社会福祉を理解する。大変幅の広い領域であるが、社会福祉全般を理解できるよう、教科書の使用により解説する。
		放射線衛生学	○	○				放射線の生物学的影響、国際放射線防護委員会勧告及び我が国の防護関係法令、自然放射線被曝、医療被曝、職業被曝ならびに公衆・職業人に対する放射線影響について考え、不必要な放射線被曝を避ける方策について学ぶ。
	医療	医療安全管理学	○	○				医療における救急時の諸問題、感染管理および安全管理に関する基本的知識を教授する。心肺蘇生法(一次救命処置、二次救命処置)、救急救命処置の基本手技、救急器具・薬品の使い方について演習を含め講義する。
		介護実習			○	○		少人数のグループにわかれて、医療または福祉施設において、介護を必要とする人と直接かかわる実習を行う。実習は夏期集中中であるが、前期に事前オリエンテーションを実施するので、それに出席することが必要である。
		チーム医療論			○	○		保健、医療、福祉を含めた統合的ケアサービスを提供するために、患者や障害を抱える人の問題に対してどのようにチームアプローチする必要があるかを検討するための基礎的知識を教授する。
		教育指導論	○			○		教育指導を実施するにあたり必要な基本的知識を学習し、それをふまえて、医療従事者が患者さんやその家族に対して行う教育指導場面について、具体的な適用方法を学習する。
		薬理学	○	○				医療従事者として医薬品の適正使用に必要な、1)医薬品使用における基本的知識、2)医療現場で使用される主な薬物の作用と副作用、3)医療従事者として必要な医薬品の安全対策、について学ぶ。
	健康	栄養学	○	○				食物摂取の調節機構、消化と吸収、各栄養素の代謝とその生理的意義等について学習し、人体と食物の相互作用について理解する。また医療職として必要な栄養ケア・マネジメントについても概説する。
		精神保健	○	○	○	○		現代社会における生活場面との関わりの中での精神保健について、講義とグループワーク、発表を活用し検討する。
		免疫学Ⅰ(臨床免疫学)	○					免疫とは、疾(病氣)を免れる(排除する)という意味である。生体の病原菌や非自己のものを認識し、排除する巧妙な仕組みについて学ぶ。しかし、免疫反応がときに生体にとって有害な反応(アレルギー)を引き起こすこともあり、それらの機序についても学ぶ。
		病理学Ⅰ(基礎)	○	○				病氣の原因とその本態を知る。病的状態における人体の形態的変化を理解する。
		医学統計学	○		◎	○		データ分析に必要な基本統計量と医学分野で良く使われている統計解析法を学ぶ。統計学における数理的思考を学ぶとともに、統計学が医学においてどのような形で使われているかを理解し、最新統計学を学ぶための基礎を身に付ける。
		医学統計学演習	○	○	◎			本演習では、情報モラル・リテラシーを学ぶとともに、具体的なデータを用いてコンピュータを使った具体的なデータ処理の方法と統計解析の方法を演習形式で学ぶ。
		疾病論Ⅰ(精神疾患)	◎	○				精神障害を有する患者の看護に必要な精神医学的知識の修得を目指す。
	専門基礎	疾病論Ⅱ(感染症・循環器疾患・婦人疾患)	◎	○				全身性の症状・徴候を学び、各疾患の症状・徴候、疾患の基礎的知識、検査法、治療法の内容や目的に精通する。感染症、アレルギー性疾患・膠原病、内分泌系疾患、女性生殖系疾患について精通する。
疾病論Ⅲ(呼吸器疾患・自己免疫疾患・腎臓疾患)		◎	○				全身性の症状・徴候を学び、各疾患の症状・徴候、疾患の基礎的知識、検査法、治療法の内容や目的に精通する。循環器疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患について精通する。	
疾病論Ⅳ(消化器疾患・血液疾患・代謝・内分泌疾患)		◎	○				消化器系疾患・血液・造血管系疾患、代謝疾患について学習する。	
疾病論Ⅴ(脳神経疾患・外科疾患・麻酔)		◎	○				脳・神経、筋系疾患、外科疾患の基礎病態・外科を支える分野、外科的治療、麻酔科、症状とその臨床的意義について学ぶ。最終で、全身性の症状・徴候について学習する。	

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標	
		①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身に付け、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	高度化・専門化する医療を支え、保健業の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統のかつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。		
基礎看護学	疾病論VI(母性疾患)	◎	○				妊娠、分娩、産褥期にみられる主な異常について、その原因と病態を理解する。また、不妊の原因、診断、治療ならびに避妊法についても理解する。	
	疾病論VII(小児疾患)	◎	○				出生前の原因による疾患や、新生児、乳幼児、学童、思春期それぞれの時期に特有な小児疾患の病態および治療法について理解する。	
	看護学概論	◎	○		○		看護学を初めて学ぶ人にとって、ガイダンスとなる科目であり、学習をとおして看護学に対する興味や関心を高めることをめざす。	
	看護理論	◎	○		○		看護の見方・考え方の基盤として看護理論全般について学習し、代表的な理論家の理論内容を看護実践へ活用する方法について理解する。1) 看護理論を構成する概念について理解する。2) 看護理論が出現した社会的背景から、代表的な理論家の理論内容を理解する。3) 看護理論を臨床へ活用する方法について理解する。4) 看護理論を学習することにより、看護の見方・考え方の基礎を習得する。5) 理論家の書物を講読・発表から、分析力・批判的思考力・発表能力などを養う。【個別行動目標】1) 看護理論を理解するために必要な関連する概念を説明する。2) 理論開発の過程について説明する。3) 看護理論の歴史的な変遷過程と、各時代の代表的な理論家を列挙し、理論の概要を述べる。4) 看護理論を分類し、そこに分類される理論家を列記し、理論の内容の概要を説明する。5) 看護理論の特徴を説明する。6) 看護理論家の理論が出現した社会的背景と理論内容を関連づけて説明する。7) 看護理論家の理論を構成するメタパラダイムおよび主要概念についてまとめ、発表・討論する。8) 看護理論の実践への活用と批判について発表・討論する。9) 自らの看護に対する見方・考え方を自分の好む理論家から表現する。その他、それぞれの行動目標の詳細については各時間ごとに提示する。	
	看護技術I(療養生活・環境)	◎	○	○	○		日常生活の援助に必要な、基礎的知識や基本的技術・態度を身につける。特に、対象者が過ごす日常生活の環境整備、対象者の清潔や食事に対する基本的な援助方法を理解し、個々に応じた援助を実施することができる。	
	看護技術II(安全安楽と回復の促進)	◎	○	○	○		看護実践の基本となる日常生活の援助技術及び診療の補助技術を身につける。単なるスキルを学ぶのではなく、安全性、安楽性、効率性などの観点から、対象者に応じた援助方法とは何かを考察する。各演習を通して、これまでに修得した看護技術の援助を応用することができる。	
	看護技術III(診療の補助)	◎	○	○	○		与薬の技術は、単なるスキルではなく副作用の観察や誤薬防止が重要となる。また、緊急時の対処法により救命率や予後が異なるため、これらの知識や技術は看護者にとって必須である。本授業では、これまでの疾患や病態生理の知識と看護技術演習からの知識を統合した上で、与薬や救急救命処置に必要な援助を理解する。さらに、予薬や救命救急処置の看護技術と医療者としての態度を身につける。	
	看護技術IV(看護過程)	◎	○	○	○	○	ヒューマンケアの基本的な能力、及び根拠に基づき看護を計画的に実践する能力を身につける。また、基礎看護学実習IIに向けて、臨床実習に最低限必要な知識・技術・態度を身につけることができる。	
	ヘルスアセスメント	◎	○	○	○		今日のヘルスケア領域において看護者に求められる役割も大きく変化し、視診、触診、打診、聴診などのフィジカルアセスメント技術は、対象者の身体・心理的問題を維持するうえで看護者に欠かせない能力となっている。また、看護ケアには心理・社会的側面の情報も重要である。本授業では、専門的関係を築くための基本的なコミュニケーション技術と、フィジカルアセスメント技術を用いて、対象者の健康問題をアセスメントする能力を養うことを目的とする。	
	基礎看護学実習I(療養環境の理解)	○	○	○		◎	病院で見学実習を行うことにより、患者の療養生活を知り、患者の理解を深める。また、病院の構造・病棟環境や看護体制・看護の役割の実態を学習する。さらに、見学実習と医療の専門職を目指す他学科学生との合同カンファレンスを通してチーム医療のより良いあり方について討論し、理解を深める。	
	基礎看護学実習II(看護過程の展開)	○	○	◎		○	看護援助の基盤となる「感じ、考えること」「対象者を大切にすること」をねらいとしています。1. 受け持ち患者の全体像を理解する。2. 看護援助の観点から受け持ち患者の基本的なコードを把握し、満たすための日常的援助を実施する。3. 援助を行うに際して患者の潜在的・顕在的な力を見出し、その力を生かすように努める。4. 受け持ち患者との間で、相互的な尊重・信頼を基盤とする援助的人間関係を築くように努力する。	
	リスクマネジメント	○	○	○		◎	○	医療における事故やヒヤリ・ハットを解決するためには、いつ、どこで、何が、誰に起こったのかを報告するのみが不可欠である。この授業では医療安全について事例から学ぶことを目指している。
	成人看護学概論	◎	◎	○		○	○	本科目は成人看護学の導入となる科目である。ライフサイクルのなかで最も長い成人期にある人々を全人的・統合的存在として理解すると共に、看護の基本姿勢と主要概念、アセスメントの枠組みを学習する。
	成人看護学実習I(急性期)	○	○	○		○	◎	成人看護学実習Iは、以下の2つの目的で実施する<成人看護学実習I-①(導入実習)>成人看護学実習I-②への導入を目的とし、成人期に特有な健康問題をもつ対象者をアセスメント方法と看護過程の展開方法を習得する。<成人看護学実習I-②>本実習では手術前・手術中・手術後を包括的に理解することに努め、合併症を予防し健康問題解決のための援助方法を学習する。特に侵襲下にある患者の生命活動をサポートし生活活動を保護する援助技術について重点的に学ぶ。また、実習体験を通して、批判的・創造的思考を深めると共に、自己の看護観・倫理観・職業観を発展させる。
成人看護学実習II(慢性期)	○	○	○		○	◎	本実習では、健康障害のために入院治療中である生活の再構築あるいは再調整の必要な患者とその家族のもつ健康問題を解決することを通して、科学的かつ臨理的な問題解決能力を養う。さらに、実習体験を通して、批判的・創造的思考を深めると共に、自己の看護観・倫理観・職業観を発展させることを目的とする。	
成人援助論I(急性期)	◎	◎	○		○	○	1. 生活の再調整・再構築が必要な成人患者の看護ケアの特徴を理解する。2. 生活習慣病が原因とした生活の再調整や再構築が必要な成人患者の基本的看護活動について理解する。3. 手術やリハビリ(重症化状況)ケアが必要な成人患者の基本的看護活動について理解する。4. リハビリテーションが必要な成人患者の基本的看護活動について理解する。	
成人援助論II(慢性期)	○	○	◎		○	○	成人援助論IIでは、長期に病む人や、手術や緊急入院に伴う急性状況にある成人に多く用いられている基本的援助技術を学内演習で学ぶとともに、病氣を持って治療と療養を続けなければならない人の看護問題を解決する方法について学内での演習をとおして学ぶ。	

成人・高齢者看護学

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標	
		①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身に付け、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。		
科目名	リハビリテーション看護論	◎	◎	○	○	○	リハビリテーションが必要な対象者とその家族の理解を深めるために、リハビリテーション看護に必要な基礎的知識や看護方法を学ぶ。おもに高次脳機能障害やその雇用症候群予防のための看護方法を学び、成人や高齢者への雇用症候群予防方法を体験的に学ぶ。	
		◎	◎	○	○	○	がんに対する治療は年々複雑かつ高度になっている。このようながん患者が主体的に治療に参加し、その人らしい生活が維持できるよう支援するために必要ながん治療に関する基本的知識、がん患者の主要な健康問題と援助方法について学習する。また、長い療養生活のなかでがん患者が抱える心身の苦痛や苦悩についての基本的なアプローチ方法について学ぶ。	
		◎	◎	○	○	○	高齢者の看護を初めて学ぶ人にとって、ガイダンスとなる科目である。高齢者を取り巻く環境、高齢者の理解に基づいた看護の基礎を理解し、高齢者看護学に対する興味や関心を高めることをめざす。	
		◎	◎	○	○	○	加齢による心身の機能低下に加えて、様々な疾患を抱える高齢者を包括的に理解し、高齢者のQOLの向上を目指した援助のあり方と具体的な援助技術について学習する。また、様々な高齢者の療養の場とその特徴を理解し、具体的な援助方法を学習する。さらに、高齢者に対する看護過程の展開方法を学ぶ。	
		○	○	○	○	◎	高齢者は長い人生経験で蓄積された成熟の要素と老化による衰退の要素を併せもった存在として捉えることができる。このような観点に立つならば、高齢者のQOL向上のためには患者の成熟の要素を活用して衰弱の要素を補完するケアが必要である。本実習ではオレムのセルフケア理論を基盤として治療過程にある高齢者に対する援助方法を学ぶ。また、実習を通して自己の看護観や倫理観、職業観を養う。	
	母性・小児看護学	母性看護学概論	◎	◎	○	○	○	生と生殖にかかわる健康と権利(reproductive health/right)の視点から、母性・父性・親性とは何か、個、家族、集団からその特徴を理解し、母性の一生を通した全体像を把握することで、母性看護を展開するための基礎的知識を習得する。
		子育て支援論	◎	◎	○	○	○	ライフサイクルに応じた女性および、マタニティサイクルにある母子の健康状態をアセスメントし、母、子、家族に対して必要な看護援助技術を学ぶことで、適切な母性看護援助過程を理解することができる。
		小児看護学概論	◎	◎	○	○	○	小児看護の基本となる理念や小児を取り巻く家庭・社会環境および対象の特性について理解する。
		小児援助論	◎	◎	○	○	○	小児の発達段階に応じた日常生活の援助ならびに健康問題をもつ小児の看護援助の方法を理解する。
		小児看護学実習	○	○	○	○	◎	小児とその家族を対象に、成長発達段階および健康レベルに応じた適切な看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を修得する。
		母性看護学実習	○	○	○	○	◎	女性のライフステージに即して生じる健康問題について、生殖に関する健康と権利(Reproductive Health/Rights)の視点から援助ができる基礎能力を養う。また、特にマタニティサイクルにある母子と家族への適切な援助ができるための基本的な実践能力を養う。
		母児関係論	◎	○	○	○	○	母(父)と子、および親と子の関係について、どのような考え方があるのかを現存する理論を基にして理解し、演習を通してその現象の重要性を深める。また、母(父)児の関係を発達させるための母乳育児の重要性や子育て支援について学ぶ。
子どものメンタルヘルス		◎	○	○	○	○	子どものこころの問題が増加している。子どものこころの問題は、対人関係の障害に起因するこころの発達の歪みと捉えられる。そこで、主に不登校、子どもの虐待、発達障害、心身症、摂食障害、気分障害をとりあげ、症状の特徴、要因を理解し、子どもを発達支援の視点、すなわち子どもの発達の基本的要素である信頼関係を確立し、子どもに自信をとりもたせるように対応することの大切さを学習する。	
地域・精神看護学	精神看護学概論	◎	◎	○	○	○	精神の発達と健康を支える看護活動の特徴を理解する。	
	精神看護援助論	◎	◎	○	○	○	精神の健康の維持および促進、また精神疾患・障害からの回復を支援するために必要な基礎的知識と方法を理解するとともに、看護職の役割と今後の課題を検討する。	
	精神看護学実習	○	○	○	○	◎	精神障がい者がその人らしい生活を送るために、精神の健康の維持および精神疾患・障害からの回復に必要な支援に関する基礎的能力を培う。	
	在宅看護学概論	◎	◎	○	○	○	在宅看護の特徴を知り療養者を取り巻く問題を抽出し、求められている在宅看護の役割と今後の課題を考察する。	
	在宅看護援助論	◎	◎	○	○	○	在宅看護の実践に必要な知識、技術についてその成り立ちの基礎となる根拠と手法について理解する。	
	在宅看護学実習	○	○	○	○	◎	在宅で療養している対象者とその家族に対して、生活を尊重しながら生活の質(QOL)向上の視点から看護援助が実践できる基礎的能力を身に付ける。	
	地域看護学概論Ⅰ(地域で暮らす人々の理解)	◎	◎	○	○	○	地域で暮らすあらゆるライフステージ、すべての健康レベルの人々の生活と健康について理解するとともに、個人、家族、集団、組織、そして地域全体を対象とした地域看護・公衆衛生看護活動の役割について学ぶ。	
	地域看護学概論Ⅱ(地域看護・公衆衛生)	◎	◎	○	○	○	健康問題の変遷や健康課題を概観し、健康管理を支援するための地域保健活動を理解する。	
	公衆衛生看護学概論	◎	◎	○	○	○	公衆衛生看護活動の理念(原理・原則)を理解する。地域住民を捉える視点および予防的視点から健康水準の向上をめざす保健師の役割を理解する。	
	公衆衛生看護援助論	◎	◎	○	○	○	1. 地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に必要な公衆衛生看護活動技術の基本を学習する 2. 対象別看護活動として成人・高齢者・母子および感染症を取り上げ各々の保健師活動の実践を学習する。	
	公衆衛生看護学実習	○	○	○	○	◎	地域の多様な場において生活する人々の健康の維持増進を支援する保健師としての基礎的能力を養うことを目的とする。	
	ケアマネジメント	◎	◎	○	○	○	さまざまな健康レベルの対象に、公衆衛生看護と在宅看護を実践していくために必要なケアマネジメント、およびケアマネジメントの基盤となる地域ケアシステムについて理解する。	

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身に付け、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的に評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。	
健康教育方法論	健康教育方法論	○	○	○	○	◎	健康教育をヘルスポモーションとの関連で理解し、健康教育の企画・指導案の作成や準備・実施・評価までの一連の健康教育を展開する過程における基本技術を習得する。
	産業保健看護論	◎	◎	○	○	○	産業の場における人々の心身の健康課題を取り上げ、産業保健・看護活動の基礎的な知識および技術を習得する。
	保健医療福祉行政論	◎	◎	○	○	○	少子高齢化社会や市町村合併等社会情勢の変化に伴い行政の機能と役割も大きく方向転換してきており、時代の流れと人々の意識の変化に対応できる公衆衛生看護職が求められている。当科目では、公衆衛生行政の視点から、地域の特性や健康課題に対応できる保健師の機能と役割について考察する。
	公衆衛生看護管理論	◎	◎	○	○	○	公衆衛生看護管理の目的および機能を理解するとともに、具体的な事例検討等やグループワーク等を通して、公衆衛生看護管理活動の実際と保健師の役割を学ぶ。
	健康管理論	○	○	○	◎	○	地域・公衆衛生看護活動の基礎的な理論および技術を習得するために、あらゆる発達段階およびあらゆる健康レベルにある地域住民の健康管理について理解する。
	疫学	◎	○	○	○	○	人間集団(社会)の健康維持・増進に必要な統計情報や疫学的手法および予防政策について理解し、応用できるようにする。
	ケアシステム論	◎	○	○	○	○	看護の対象となる人々のためのケアシステムについて理解する。
	学校保健論	◎	○	○	○	○	学校における保健管理、保健教育、組織、保健室の運営、身体とこころの健康問題をとりあげ、学校保健の重要性について理解する。学童・生徒の身体・健康維持・増進における学校の役割については、母子保健と関連させ理解する。こころの問題については、子どものメンタルヘルスクエアとつらあげた問題の中でも発達障害児のこころの問題を重点的にとりあげる。また、母子保健と学校保健の連携のあり方について学習する。
	原書講読Ⅰ(原書の読解)		○				看護学に重要な原書を講読し、これまでの学習、看護や自分の体験をふまえながら原書の内容を理解する。
	原書講読Ⅱ(研究論文)		○				エビデンスに基づく看護の探求や、看護の新たな知識開発のために、英文や外国語で書かれた看護に関する論文や著書を選択して読解する能力を習得する。
	家族看護学	◎	○	◎	○	○	ケアの対象としての家族について理解する。
	看護管理学	○		○	○	○	医療・医学の発展過程を踏まえ、患者に質の高いケアが提供できるための様々な看護管理の方法について理解する。
	看護教育学	◎	○	○	◎		看護教育の歴史、教育課程、教育方法、教育評価など、看護教育の基本的知識を習得する。
	看護研究	◎	○				1) 研究の基礎的知識や方法について理解する。 2) 看護研究の過程について理解する。 3) 研究の関した研究デザインのあり方について理解する。 4) 各専攻における現在問題とされていることや、社会的問題から、自ら問題意識を研究テーマへ発展させて探求する能力を修得する。
看護倫理	○	○	○	○	◎	医療のめざましい進歩によって多大な恩恵がもたらされている一方、看護倫理に関する問題が増加している。日々の医療行為には、いつも倫理的な問題が潜んでいると言っても過言ではない。倫理的な問題は、患者を傷つける医療人の日々のなげない行動や言葉から、高度な医療に伴う問題までさまざまである。種々の看護倫理に関する問題をとりあげ、医療行為を行うにあたって、正直で、責任と思いやりをもって患者に対応することが、看護者にとって最も基本的な態度であることを学習する。	
国際看護学概論	○	◎			○	This course is an introduction to understand of the concept of International Nursing and health, the global perspectives on health, and the global cooperation and collaboration of nursing and other health care providers.	
国際看護活動論	○	◎			○	学術協定校であるメトロポリア応用科学大学(フィンランド)、フロリダアトランティック大学(アメリカ)等への短期留学プログラムに参加し、各国の保健医療福祉のしくみと現状について学ぶ。また、留学先大学の看護学や多国籍の留学生と一緒に、学部の授業(Englishコース)を受講する等、学際的交流交流および文化交流を図る。留学に際しては、留学申請および各種手続き、事前学習など、担当教員の助言のもと学生本人が主体となって進める。帰国後は、英語による報告会の開催、英語での報告書の提出などにより留学成果を報告する。	
災害看護	◎	◎	○	○	○	災害の種類と危機的な状況に置ける看護について理解する。	
看護導入実習	◎	○	○	○	◎	実習を行う医療機関の特徴と看護体制について学び、医療機関で入院治療を受ける対象者の援助がスムーズに行えるように実習を行う。また、今まで学習してきた講義・演習内容の振り返りと、臨床実習を通して援助技術の向上を図る。高齢者施設では、高齢化が進む中で医療福祉施設における看護職の役割や現状・課題を把握し、急性期から地域の医療福祉施設における支援までのスムーズな支援体制の在り方を学び、今後の医療制度の実現に適應できる看護職者としての視野を拓けていくことを目的とする実習を行う。	
看護統合実習	◎	◎	◎	◎	◎	保健医療チームの一員として、看護を統合的かつ継続的に展開し、看護の実践能力を高める。	
看護概説Ⅰ(養護教諭の役割と専門性)	◎	◎	○	○	○	養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基礎について学ぶ。養護教諭の職務と果たすべき役割、子どもを取り巻く健康問題とその解決の支援について考える。さらに養護教諭としての基礎的、応用的知識・技術を学び科学的な理論と実践の中で研究的な資質・力量を身につける。	
看護概説Ⅱ(養護活動の展開)	◎	◎	○	○	○	養護概説Ⅰで学んだ内容をもとに健康問題解決支援のための具体的な養護活動の方法について学ぶ。また、学校教育において養護教諭が行うべき養護活動および、養護活動を機軸とした幅広い支援活動を実践できる能力を養う。	

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身に付け、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統のかつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。	
看護教諭免許関係科目	健康相談活動	◎	◎	○	○		現代の急激な社会背景の中で、いじめや不登校、薬物乱用、性の逸脱行動、生活習慣病、新たな感染症の出現等、児童・生徒の健康の維持・増進を阻害する深刻な要因が増加している。看護教諭は児童・生徒の心身の健康問題にいち早く気づくことのできる立場にある。「健康相談活動」は、看護教諭の職務の特性や保健室の機能を生かした健康相談活動の基礎・基本を学び、理解することを目的とする。
	看護実習	○	○	○	◎	◎	学内で学習した内容を実践し、看護教諭としての資質、知識、技能を習得する。
	看護実習事前事後指導	○	○	○	○	◎	事前指導は看護実習への円滑な導入と、より高い実習の成果を得るための準備を整えることを目的とする。また事後指導は実習で体験したことを整理し、他の学生の経験を共有することにより、看護教諭に必要な資質や知識、技能を築き成すことを目的とする。
	教職実践演習	○	○	○	○	◎	1. 看護教諭として教育に対する使命感、責任感、倫理感を養う 2. 社会、組織の一員としての社会性、コミュニケーション能力を養う 3. 児童生徒理解及び保健室経営能力を養う 4. 看護教諭として健康教育に関する指導力を高める。
卒業研究	卒業研究	◎	◎	◎	◎	◎	看護研究の意義・目的を明確にし、研究テーマの決定方法、文献検索の意義と方法、研究計画書の作成方法などの基礎的知識を学び、学生が個人あるいはグループで研究の過程を実際に体験し、論文の作成をおこなう。またポスター発表を行うとともに、抄録集を作成する。